

2017年3月20日

於：本郷体育館

東洋学園理事長 江澤雄一

卒業式祝辞

東洋学園大学の卒業生の皆さん、大学院で修士号を授与された皆さん、そしてご両親、ご家族の皆様、本日は本当におめでとうございます。本学の所要の課程を修了し、卒業して晴れて社会人として活躍する時が来ました。本学における皆さんの学生生活が充実していたことを願い、また、この間のご家族の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。私はこの栄ある卒業式の日の本学の理事長として一言お祝いを申し上げたいと思います。

卒業生の皆さんが社会人としての第一歩を踏み出す世界は今、混迷の中にあります。戦後アメリカが築いてきた自由世界の国際秩序がゆらぎ、世界はリーダーのいないまま波間を漂流しつつあります。1月にアメリカの大統領に就任したトランプ氏は、「アメリカ第一主義」を打出し、アメリカの利益を最優先に掲げると宣言しています。そして不法移民や麻薬の流入を防ぐため、メキシコとの国境に壁を築くと宣言、また、テロ対策のためイスラム圏の国々からの入国を禁止するとの大統領令を出しましたが、裁判所から差し止めを受けていることは報道のとおりです。また、アメリカや日本の自動車メーカーがメキシコで安い車を量産してアメリカで販売するのでアメリカ国内の雇用が失われているとして、メキシコからの輸入車には高率の国境税をかけることを主張しています。このようにアメリカはこれまでの人や物の自由に往来するオープンな市場経済を見直して内向きの保護主義的な政策に走ろうとしているといえます。

昨年11月のアメリカ大統領選挙でトランプ氏がヒラリー・クリントン氏を破り当選したことは、世界中を驚かせました。しかし、選挙前後のアメリカの世論調査では、アメリカの既存の政治経済の運営に国民の不満が高まっていたことが伺えます。特にトランプ氏が勝利した中西部のデトロイトやピッツバーグなどいわゆるラストベルトと言われる地方、鉄さびの街とでも言うのでしょうか、この地域はかつては自動車をはじめアメリカの活気に満ちた工業地帯でしたが、今やこれら製造業の衰退により白人労働者の失業率が高く、最近でも解雇の不安が渦まいており、貧困層も増加してきているようです。こうした白人ブルーカラー層の不満をトランプ氏が吸い上げ、アメリカはもっと自

国の利益を優先すべきだと呼びかけて、これら経済の発展から「取り残された人々」の支持をとりつけていったと言われています。昨年 6 月にはヨーロッパでも、イギリスが国民投票の結果 EU からの離脱を決め世界に衝撃が走りましたが、それを支持したのもイギリスの地方の労働者層であり、ここでも移民の流入により地域住民の雇用の機会が奪われたことへの不満が高まっていることが指摘されています。

このように、アメリカ・イギリスにとどまらず、ヨーロッパ各国でも不満を抱えた労働者層の主張を吸い上げる形でいわゆるポピュリズム、大衆迎合主義の政治家が支持を集めていることが懸念されています。ポピュリズムは自らの目先の利益を守ることに主眼があり、世界の安定した秩序づくりや国際協調には関心がないので、世界はますます不安定になっていくことが心配されます。

それでは、なぜ世界がこのようなポピュリズムの流れに翻弄されることになったのでしょうか。その大きな要因として指摘されるのは、世界における富の格差が拡大していることです。フランスの経済学者トマ・ピケティの書いた『21 世紀の資本』という本は世界的なベストセラーになりましたが、それによるとアメリカでは国全体の富の 70 パーセント以上を人口の 10 パーセントの富裕層の人達が保有しており、また、そのうちの半分以上は人口の 1 パーセントの人達に集中しているというのです。世界の国々を比較しても先進国の中ではアメリカとイギリスの富の格差が最も大きくなっています。資本主義経済のもとでは、資本の収益率が経済全体の成長率より高いため、資本を持っている人はますます豊かになり、そうでない一般の人達や労働者はだんだん貧しくなっていくので、富の格差が拡大し、人々の不満が高まっていくといえます。

自由な市場でお互に競争することが、人類の進歩と成長をもたらす一方で、競争においては勝者がすべてを手に入れ、敗者は取り残され忘れ去られる結果になっています。かつてのアメリカは誰もが努力すれば成功することのできる希望の国とされ、そのアメリカンドリームが人々の生きがいとされてきましたが、これだけの富の格差が広がった現在、この格差をのりこえて将来の夢を描くことはきわめて困難になったと思います。

この状況は第二次世界大戦後アメリカのリーダーシップの下で西側世界に展開してきた自由主義経済体制が行き詰まりをみせているということもできるでしょう。1980 年

代のレーガン大統領とサッチャー首相の下で西側経済は大きく発展をみせ、1989年にベルリンの壁が崩壊して東西冷戦も終り、西側世界の繁栄が続くかと思われましたが、2008年にはリーマンショックが起り、市場経済の行き過ぎが問題となりました。その背後で富の格差が静かに拡大しており、その格差への反発が今回のポピュリズムの抬頭をもたらしていると考えられます。この大きな歴史の流れの中で世界がこれからどう動いていくかむずかしい局面にあると思います。

しかしながら、これまでの自由主義経済と民主主義にまさる別のよりよい制度があるわけではなく、現在の仕組の弱点を補い、そのよいところを生かして世界の持続的発展につなげていく必要があります。トマ・ピケティは累進所得税と資本税を強化することにより所得の再配分を行うことを提案していますが、果たしてそれだけで不均衡を是正できるかどうかは分かりません。しかし、拡大しすぎた富の格差を何らかの方法で是正することが安定した世界秩序を取り戻すための前提条件であるように思われます。

翻って日本を見ると、経済状況は力強さに欠けるものの、富の格差はアメリカやイギリスほど大きくはなく、社会は比較的安定していると思われます。アメリカがトランプ政権のもとでアメリカ第一主義を掲げ、内向き思考になっていく時、多くの問題を抱え流動化する国際関係においては日本の存在感や役割が相対的に重要になっていくことが考えられます。自由経済と民主主義を柱とする我が国が、今後国際協調や国際貢献に前向きに取り組んでいくことが期待されていると思います。

だいぶ堅苦しい話になりました。世界はこのほかにも、国際テロ、難民問題、地球温暖化など差し迫った課題を抱えています。そして世界はこれから人的物的交流がますます拡大し、お互に緊密になっていきます。特に日本経済は今後、海外への展開に大きく依存していくことになるでしょう。海外展開に当っては現地の文化、習慣やものの考え方を理解し、お互に納得のできる関係を築いていくことが重要です。本学はこのような考え方に立ち、外国人とのコミュニケーションのための英語力と異文化理解のための教養教育、いわゆるリベラルアーツ教育に力を入れてきました。本学の卒業生の皆さんが常に世界と向き合い海外の仕事にも積極的に係り、日本の国際的な発展に貢献して下さることを願っております。

最後になりましたが、今日は私自身の卒業式でもあります。15日の理事会でお許しを得て、今月末に理事長を辞し、学園長として新理事長をサポートしていくことになりました。新理事長は壇上の愛知太郎理事が務めてくれます。愛知理事長のもとで原田学長や教職員とともに、皆さんの卒業後の本学との絆が一層深くなることを願っております。私は元々大蔵省、現在の財務省で国際金融の仕事をしていたので教育に携わるのははじめてのことでしたが、日々若い学生の皆さんと接してその立派に成長される姿をみて本当に感動しました。本学の建学の精神にあるように人間は「自強不息」たゆまず努力することが大事です。社会人になってからも東洋学園の学びを糧にして更に大きく成長されることを祈っております。

それでは皆さんお元気で。